

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月13日

【四半期会計期間】 第52期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 J F E コンテナ株式会社

【英訳名】 JFE Container Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中 島 廣 久

【本店の所在の場所】 東京都千代田区猿楽町一丁目5番15号
(平成24年10月1日より東京都千代田区岩本町三丁目2番4号から上記の所在地に移転しております。)

【電話番号】 03-5281-8511 (代表)

【事務連絡者氏名】 企画部長 村上伸二

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区猿楽町一丁目5番15号

【電話番号】 03-5281-8514

【事務連絡者氏名】 企画部長 村上伸二

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第51期 第2四半期 連結累計期間		第52期 第2四半期 連結累計期間		第51期	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(千円)		15,697,220		12,595,291		31,014,707
経常利益	(千円)		1,315,607		765,809		2,203,454
四半期(当期)純利益	(千円)		802,807		403,016		1,171,351
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		857,674		425,281		1,130,439
純資産額	(千円)		16,767,548		17,248,099		16,896,853
総資産額	(千円)		32,158,043		29,476,324		31,233,949
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		28.02		14.06		40.89
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		50.5		56.6		52.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)		1,180,923		1,377,402		2,007,006
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)		745,676		1,871,168		1,263,054
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)		322,129		271,692		288,940
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		1,409,379		1,876,325		1,728,317

回次		第51期 第2四半期 連結会計期間		第52期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年7月1日 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		10.22		8.16

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、連結子会社でありましたJFE製缶株式会社が会社分割及び株式移転により持分法適用関連会社となりました。この異動に伴い、報告セグメントの「18リットル缶事業」を廃止いたしました。

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	関係内容
JFE製缶株式会社	兵庫県伊丹市	80	18リットル缶事業	商品の仕入、製品の販売

(注) 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

第 2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第 2 四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第 2 四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

わが国経済および産業用容器業界の状況

当第 2 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要や、エコカー補助金再開に伴う自動車販売の好調等、個人消費や設備投資に復調の動きが見られる一方、円高や欧州の景気後退、中国を中心とするアジア経済の減速による輸出低調等により、景気は停滞し踊り場局面となっております。

当社グループの事業分野である産業用容器業界におきましても、主要需要家である化学・石油業界が輸出環境の悪化等を受け、稼働率が低迷しており、設備の一部停止や統廃合を進めるなど、需要回復の兆しが見えない厳しい状況が続いております。国内の200リットル新缶ドラムの販売数量は、昨年 7 月以降前年割れが続き、本年 7 月に一旦回復し前年を上回ったものの、8、9 月は再び前年を下回る水準で推移いたしました。その結果、当第 2 四半期連結累計期間では前年同期に対し 6.5% 減の 6,497 千缶となりました。

当社グループの状況

このような需要環境の下、当社グループは、国内産業用容器業界のリーディングカンパニーとしてアジアでも最大級の販売規模を有し、中国にもドラム缶工場を有するわが国唯一の企業グループとして、独自の環境対応製品や耐久性の高い高品質の製品など、豊富な品揃えで営業活動を展開し、業界をリードしております。

当第 2 四半期連結累計期間における当社グループの連結業績につきましては、売上高 125 億 95 百万円（前年同期比 19.8% 減）、営業利益 9 億 70 百万円（前年同期比 29.0% 減）、経常利益 7 億 65 百万円（前年同期比 41.8% 減）となり、四半期純利益は 4 億 3 百万円（前年同期比 49.8% 減）となりました。

売上高の減少は、200リットル新缶ドラムの販売数量減少に加え、第 1 四半期連結会計期間より、18リットル缶の製造・販売を行っております J F E 製缶株式会社が、会社分割及び株式移転により連結子会社から持分法適用関連会社になった事が起因しております。経常利益の減少は、国内ドラム缶販売数量の減少や、中国の江蘇工場の稼働に伴う固定費負担増による営業利益の減少に加え、J F E 製缶株式会社の会社分割及び株式移転に伴う影響によるものです。当期純利益の減少は、上記に加え前第 1 四半期連結累計期間に土地売却に伴う特別利益の計上を行った為であります。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、セグメントの「18リットル缶事業」は J F E 製缶株式会社の持分法適用関連会社化に伴い廃止いたしました。

〔ドラム缶事業〕

当第2四半期連結累計期間の当社グループのドラム缶販売数量は、国内2,444千缶（前年同期比9.5%減）、中国1,341千缶（前年同期比0.4%減）、合計3,785千缶（前年同期比6.5%減）となり、売上高は124億34百万円（前年同期比9.5%減）、経常利益は9億24百万円（前年同期比33.6%減）となりました。

国内ドラム缶事業は、前述の産業用容器業界の状況の通り、昨年度下期からの需要減退から、景気改善により若干持ち直してはきましたが、まだその水準は低く、停滞が続いております。主な需要先である化学業界におきましても、円高の影響や設備事故の復旧等も重なり生産が落ち込んだため、ドラム缶の販売数量は減少しており、その結果、前年同期に対し減収減益となりました。

一方、中国ドラム缶事業も、欧州危機に伴う輸出の不振や個人消費の伸び悩みにより、販売数量は前期並に止り、同業他社との競争激化や江蘇工場の稼働に伴う固定費負担増もあり、前年同期に対し減収減益となりました。

なお、足元の状況では、中国ドラム缶事業全体の販売数量は、江蘇工場の本格稼働もあり3ヶ月連続で新記録を更新し、9月度には過去最高となる293千缶を達成いたしました。また浙江工場は今期中には累積損失を解消する見通しで、第2ラインの建設も、来年10月の稼働に向け工事は順調に進んでおります。

〔高圧ガス容器事業〕

高圧ガス容器事業は、主力である天然ガス自動車用燃料容器の販売が低迷しており、厳しい収益状況が続いております。当第2四半期連結累計期間の売上高は医療用酸素容器向けの販売増や受託開発案件の拡大により1億60百万円（前年同期比134.9%増）、経常損益は39百万円の損失（前年同期は85百万円の損失）となりました。天然ガス自動車用燃料容器に関しましては、海外での天然ガス自動車普及に伴う需要増に対応すべく活動中であり、また国内では、医療用酸素容器の拡販に加え、バイオガス関連事業など国内における新しいビジネスチャンスを的確に捉え、早期の黒字化を目指してまいります。

（2）財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末比17億57百万円減少の294億76百万円となりました。資産の部では、受取手形及び売掛金の増加などにより、流動資産が6億16百万円増加いたしました。旧伊丹工場土地の一部売却に伴い固定資産が23億73百万円減少いたしました。

一方負債の部は、前連結会計年度末比21億8百万円減少の122億28百万円となりました。主な要因は、連結子会社でありましたJFE製缶株式会社が会社分割及び株式移転により第1四半期連結会計期間から持分法適用関連会社となったことに伴う支払手形及び買掛金の減少などで、流動負債が21億12百万円減少したことによるものです。

純資産合計は前連結会計年度末比3億51百万円増加の172億48百万円となりました。主な要因は、四半期純利益計上に伴う利益剰余金の増加であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は前連結会計年度末より 1 億48百万円増加（前年同期比 4 億66百万円の増加）し、18億76百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは13億77百万円の支出（前年同期比25億58百万円の支出の増加）となりました。主な内容は、税金等調整前四半期純利益 7 億48百万円、減価償却費 4 億83百万円、未収入金の減少額 7 億89百万円などによる収入及び、売上債権の増加28億84百万円、仕入債務の減少 2 億27百万円、法人税等の支払額 2 億98百万円などによる支出となっております。

投資活動によるキャッシュ・フローは、旧伊丹工場土地の一部売却に伴う有形固定資産売却による収入 24億78百万円、及び新規設備投資に伴う有形固定資産の取得による支出 5 億56百万円などにより、18億71百万円の収入（前年同期比26億16百万円の収入の増加）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額による支出 1 億42百万円などにより、2 億71百万円の支出（前年同期比50百万円の支出の減少）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第 2 四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動金額は、67百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	56,000,000
計	56,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,675,000	28,675,000	大阪証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	28,675,000	28,675,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日		28,675,000		2,365,000		4,649,875

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
J F E スチール株式会社	東京都千代田区内幸町2丁目2番3号	15,482	53.99
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	東京都中央区日本橋1丁目4番1号	3,218	11.22
J F E 商事株式会社	大阪市北区堂島1丁目6-20	1,534	5.34
京極運輸商事株式会社	東京都中央区日本橋浜町1丁目2番1号	636	2.21
J F E コンテナ社員持株会	東京都千代田区岩本町3丁目2番4号	501	1.74
HSBC PRIVATE BANK (SUISSE) SA HONG KONG BRANCH - CLIENT ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	C/O HSBC INVESTMENT BANK ASIA LIMITED LEVEL 14,1 QUEEN'S ROAD CENTRAL HONG KONG (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	450	1.56
株式会社メタルワン	東京都港区芝3丁目23番1号	440	1.53
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	350	1.22
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	209	0.72
渡辺 政子	横浜市泉区	200	0.69
計		23,020	80.28

(注) J F E コンテナ社員持株会は、平成24年10月1日から東京都千代田区猿楽町一丁目5番15号に移転しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 29,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,587,000	28,587	
単元未満株式	普通株式 59,000		
発行済株式総数	28,675,000		
総株主の議決権		28,587	

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) J F E コンテナ株式 会社	東京都千代田区岩本町3 丁目2番4号	29,000		29,000	0.1
計		29,000		29,000	0.1

(注) 平成24年10月1日から東京都千代田区猿楽町一丁目5番15号に移転しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,743,317	1,886,325
受取手形及び売掛金	2 8,369,258	2 9,822,186
商品及び製品	245,804	184,596
仕掛品	218,731	116,057
原材料及び貯蔵品	2,378,254	2,207,952
繰延税金資産	176,603	177,367
その他	1,273,911	627,267
貸倒引当金	1,169	1,032
流動資産合計	14,404,711	15,020,720
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,563,501	1,637,562
機械装置及び運搬具（純額）	4,068,358	3,592,675
土地	9,293,284	6,531,109
建設仮勘定	23,182	209,859
その他（純額）	203,413	190,961
有形固定資産合計	15,151,741	12,162,167
無形固定資産		
その他	303,308	252,034
無形固定資産合計	303,308	252,034
投資その他の資産		
投資有価証券	730,753	1,372,143
繰延税金資産	370,676	377,343
その他	282,443	296,944
貸倒引当金	9,685	5,030
投資その他の資産合計	1,374,187	2,041,401
固定資産合計	16,829,237	14,455,603
資産合計	31,233,949	29,476,324

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 5,944,194	2 4,562,180
短期借入金	3,674,217	3,219,840
未払法人税等	296,423	360,210
未払消費税等	85,592	65,759
役員賞与引当金	27,405	22,665
災害損失引当金	37,302	-
資産除去債務	-	160,890
その他	1,650,908	1,212,823
流動負債合計	11,716,043	9,604,370
固定負債		
長期借入金	960,269	1,235,259
退職給付引当金	1,365,481	1,273,256
役員退職慰労引当金	91,740	78,280
PCB処理引当金	37,059	37,059
資産除去債務	165,066	-
その他	1,436	-
固定負債合計	2,621,052	2,623,854
負債合計	14,337,095	12,228,225
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,365,000	2,365,000
資本剰余金	4,649,875	4,649,875
利益剰余金	9,785,200	10,044,987
自己株式	6,093	6,277
株主資本合計	16,793,981	17,053,585
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,937	11,333
為替換算調整勘定	417,321	365,287
その他の包括利益累計額合計	400,383	376,620
少数株主持分	503,255	571,134
純資産合計	16,896,853	17,248,099
負債純資産合計	31,233,949	29,476,324

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	15,697,220	12,595,291
売上原価	12,193,524	9,722,579
売上総利益	3,503,696	2,872,711
販売費及び一般管理費	1 2,136,498	1 1,901,744
営業利益	1,367,198	970,966
営業外収益		
受取利息	2,714	3,799
受取配当金	5,571	5,500
持分法による投資利益	18,013	-
受取賃貸料	9,342	43,786
その他	30,052	15,786
営業外収益合計	65,695	68,873
営業外費用		
支払利息	41,908	48,252
為替差損	21,604	46,020
持分法による投資損失	-	100,853
その他	53,772	78,904
営業外費用合計	117,285	274,030
経常利益	1,315,607	765,809
特別利益		
固定資産売却益	161,384	-
企業発展奨励金	-	30,900
特別利益合計	161,384	30,900
特別損失		
災害による損失	25,380	-
減損損失	95,760	-
投資有価証券評価損	-	27,347
本社移転費用	-	20,453
特別損失合計	121,140	47,800
税金等調整前四半期純利益	1,355,851	748,909
法人税等	534,145	360,348
少数株主損益調整前四半期純利益	821,705	388,561
少数株主利益又は少数株主損失()	18,898	14,455
四半期純利益	802,807	403,016

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	821,705	388,561
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	30,424	25,034
為替換算調整勘定	67,588	64,991
持分法適用会社に対する持分相当額	1,194	3,235
その他の包括利益合計	35,968	36,720
四半期包括利益	857,674	425,281
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	825,326	426,779
少数株主に係る四半期包括利益	32,348	1,497

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,355,851	748,909
減価償却費	558,571	483,129
持分法による投資損益(は益)	18,013	100,853
投資有価証券売却損益(は益)	-	10,633
固定資産売却損益(は益)	161,394	6
退職給付引当金の増減額(は減少)	29,718	62,961
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	35,370	6,560
受取利息及び受取配当金	8,286	9,300
支払利息	41,908	48,252
為替差損益(は益)	22,091	47,275
売上債権の増減額(は増加)	898,836	2,884,807
たな卸資産の増減額(は増加)	413,060	100,351
仕入債務の増減額(は減少)	301,094	227,594
未払消費税等の増減額(は減少)	34,821	19,832
未収入金の増減額(は増加)	237,353	789,150
減損損失	95,760	-
災害損失	25,380	-
投資有価証券評価損	-	27,347
企業発展奨励金	-	30,900
本社移転費用	-	20,453
その他	107,852	14,846
小計	2,323,266	1,051,448
利息及び配当金の受取額	8,161	20,407
利息の支払額	41,706	47,327
開業費の支払額	20,147	-
企業発展奨励金	-	30,900
事業保険満期による収入	8,913	-
災害損失の支払額	24,554	31,759
法人税等の支払額	1,073,007	298,174
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,180,923	1,377,402

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,139,988	556,274
有形固定資産の売却による収入	424,388	2,478,878
無形固定資産の取得による支出	12,660	3,845
投資有価証券の取得による支出	5,819	6,068
投資有価証券の売却による収入	-	30,813
貸付けによる支出	120	100
貸付金の回収による収入	1,009	1,034
敷金及び保証金の差入による支出	2,737	64,236
敷金及び保証金の回収による収入	1,172	1,028
その他	10,920	10,061
投資活動によるキャッシュ・フロー	745,676	1,871,168
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	-	468,760
長期借入れによる収入	107,402	400,000
長期借入金の返済による支出	130,000	130,000
配当金の支払額	285,946	142,126
少数株主からの払込みによる収入	-	74,413
少数株主への配当金の支払額	-	5,035
リース債務の返済による支出	13,117	-
その他	467	183
財務活動によるキャッシュ・フロー	322,129	271,692
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,635	12,345
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	116,753	209,728
現金及び現金同等物の期首残高	1,292,625	1,728,317
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（は減少）	-	61,719
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,409,379	1,876,325

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
持分法適用の範囲の重要な変更	<p>当社の連結子会社であるJ F E 製缶株式会社(分割前会社)は、平成24年4月2日付で、J 缶管財株式会社 に商号変更するとともに、J F E 製缶株式会社(分割後会社)を新設分割により設立いたしました。</p> <p>また、J F E 製缶株式会社(分割後会社)及び日本製罐株式会社の連結子会社であった太陽製罐株式会社は、 平成24年4月23日付で、当社、日本製罐株式会社及び伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社の3社による共同株式移転により設 立されたJ N Mホールディングス株式会社の完全子会社となりました。</p> <p>この結果、第1四半期連結会計期間より、J N Mホールディングス株式会社、J F E 製缶株式会社(分割後 会社)、及び太陽製罐株式会社を持分法適用の範囲に含めております。</p>

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	<p>当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得 した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これによる当第2四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
・税金費用の計算	<p>当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益 に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半 期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率 を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法 定実効税率を使用する方法によって計算しております。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形割引高	60,000千円	千円
受取手形裏書譲渡高	205,122千円	157,645千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	45,286千円	7,838千円
割引手形	123,000千円	千円
支払手形	153,961千円	53,134千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1 販売費及び一般管理費の主な費目及び金額は次のとおりであります。	1 販売費及び一般管理費の主な費目及び金額は次のとおりであります。
運賃 889,230千円	運賃 728,664千円
従業員給与手当 297,626千円	従業員給与手当 263,794千円
退職給付費用 17,741千円	退職給付費用 20,318千円
役員退職慰労引当金繰入額 15,900千円	役員退職慰労引当金繰入額 14,320千円
貸倒引当金繰入額 27千円	貸倒引当金繰入額 千円
役員賞与引当金繰入額 8,000千円	役員賞与引当金繰入額 30,440千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1 現金及び現金同等物の前第2四半期連結累計期間末残高と前第2四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在)	1 現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成24年9月30日現在)
現金及び預金勘定 1,031,579千円	現金及び預金勘定 1,886,325千円
流動資産の「その他」(注) 392,800千円	預入期間が3か月超の定期預金 10,000千円
預入期間が3か月超の定期預金 15,000千円	現金及び現金同等物 1,876,325千円
現金及び現金同等物 1,409,379千円	
(注) 流動資産の「その他」は、預け金等のうち随時回収可能なものであります。	

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	286,478	10.0	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月25日 取締役会	普通株式	143,232	5.0	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	143,229	5.0	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月29日 取締役会	普通株式	143,226	5.0	平成24年9月30日	平成24年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	ドラム缶	18リットル缶	高圧ガス容器	合計
売上高				
外部顧客への売上高	13,744,915	1,884,037	68,267	15,697,220
セグメント間の内部売上高 又は振替高	76,024	989	0	77,014
計	13,820,939	1,885,027	68,267	15,774,235
セグメント利益又は損失()	1,393,665	20,352	85,632	1,287,679

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,287,679
持分法損益	18,013
その他	9,914
四半期連結損益計算書の経常利益	1,315,607

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ドラム缶」セグメントにおいて、外部に売却する事を予定している平成19年10月に閉鎖いたしました旧伊丹工場土地の一部について、減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては95,760千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		
	ドラム缶	高圧ガス容器	合計
売上高			
外部顧客への売上高	12,434,930	160,361	12,595,291
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	12,434,930	160,361	12,595,291
セグメント利益又は損失()	924,978	39,922	885,055

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の

主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	885,055
持分法損益	100,853
その他	18,393
四半期連結損益計算書の経常利益	765,809

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるJ F E 製缶株式会社(分割前会社)は、J 缶管財株式会社(商号変更するとともに、J F E 製缶株式会社(分割後会社)を新設分割により設立いたしました。またJ F E 製缶株式会社(分割後会社)は、当社、日本製罐株式会社及び伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社の3社による共同株式移転により設立されたJ N Mホールディングス株式会社の完全子会社となったことから、同社を持分法適用の範囲に含めております。

この結果、従来連結子会社であったJ F E 製缶株式会社(分割前会社)の営む18リットル缶事業を持分法適用会社であるJ F E 製缶株式会社(分割後会社)に承継させたことにより、報告セグメントの「18リットル缶事業」を廃止いたしました。なお、J 缶管財株式会社の営む事業は、報告セグメントの「ドラム缶事業」に含めております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	28円02銭	14円06銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	802,807	403,016
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	802,807	403,016
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,646	28,645

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第52期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)中間配当については、平成24年10月29日開催の取締役会において、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり行うことを決議いたしました。

配当金の総額 143,226千円

1株当たりの金額 5円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成24年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月13日

J F E コンテナ株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 谷 上 和 範 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 市 之 瀬 申 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 村 裕 輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているJ F E コンテナ株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、J F E コンテナ株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。